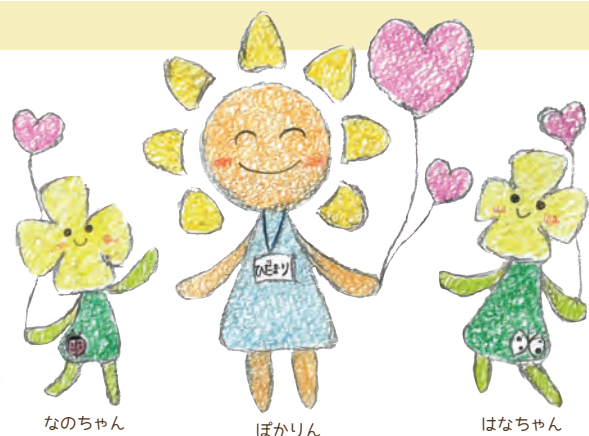


ひだまり ニュース

2023年1月
新春号



なのちゃん

ばかりん

はなちゃん

今年もよろしくお願ひいたします



千葉県中核地域生活支援センターひだまりは、本年も「誰もがありのままに、その人らしく暮らすことのできる地域社会」の創造のため、24時間365日体制で、包括的な相談支援や権利擁護、福祉サービスの総合コーディネートに取り組んでまいりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

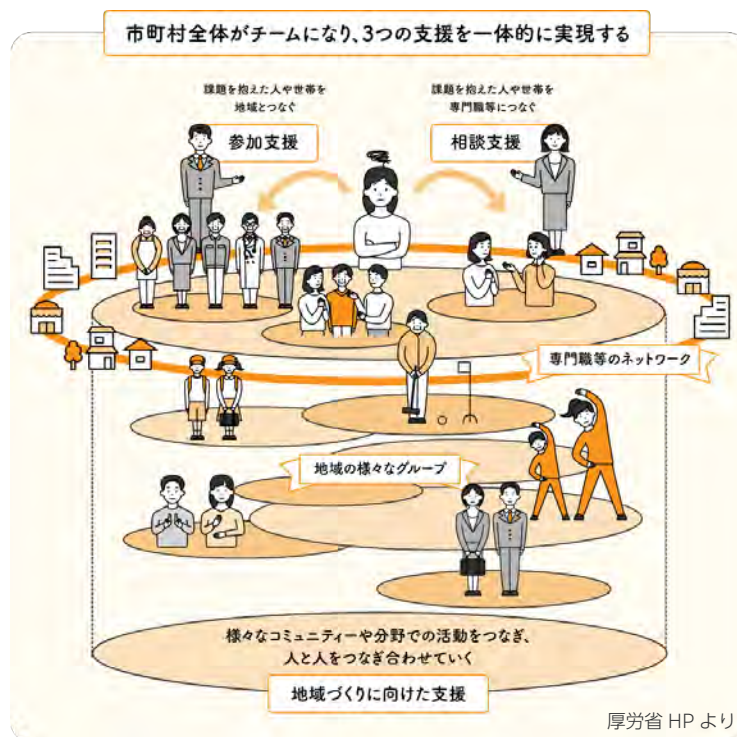
とはいえ、ひだまりは少人数のチームです。どんな不安や心配事にも寄り添いますが、簡単に解決できる問題ばかりではありません。複合的な課題が絡み合っていたり、既存の制度や社会資源だけでは解決できず、対応すべき窓口すら決まっていなかったことも少なくありません。特に最近は「ひきこもり」や「80-50問題」「ヤングケアラー」といった、社会と繋がれない人たちの問題が目立つようになってきました。

こうした様々な問題でお困りの方を支援するため、社会福祉法が改正され「重層的支援体制整備事業」が創設されました。この事業は、①包括的相談支援事業、②参加支援事業、③地域づくり事業を主な柱としており、

①包括的相談支援事業とは、子ども・障がい者・高齢者といった対象者の属性や世代を問わず、どんな方の相談でも包括的に受け止めること。複雑に絡み合った課題を支援機関のネットワークに繋ぎ、多機関が協働で対応すること、とされています。

②参加支援事業は、社会との繋がりを作るための支援を行うこと、とされており、何らかの理由で地域社会と繋がりにくい方のニーズを踏まえた丁寧なマッチングや、参加メニューを作ること、本人が定着できる支援や受け入れ先の支援を行うこと、とされています。

③地域づくり事業は、世代や属性を超えて交流できる場や「居場所」の整備、交流・参加・学びの機会



厚労省 HP より

を生み出すために個別の活動や人をコーディネートすること。地域に集えるプラットフォームの形成や、活動の活性化を図ること、されています。

この「重層的支援体制整備事業」は、各市町の手助けによる任意事業という位置づけですが、これまで中核地域生活支援センターが取り組んできた支援と重複する部分が多く、ひだまりとしても、安房圏域の市町がこの事業を実施する際には、様々な部分で協力出来るものと考えています。ひだまりは安房圏域において、誰もが繋がることのできる地域社会の創造への働きかけを今後も担ってまいりますので、よろしくお願い申し上げます。



社会福祉法人
太陽会

千葉県中核地域生活支援センター
ひだまり

ひだまりは、千葉県からの委託で社会福祉法人太陽会が運営しています。

2023.1.27 発行（不定期発行）

この広報紙に関するお問い合わせは…

☎ 0470-28-5667 まで





本年度4回目の居場所づくり『あつまり』を11月に開催しました。本来、年6回の開催を目標としているのですが、途中、コロナ感染拡大により惜しくも数回中止となり、やっと11月下旬に開催することができました。

今回の開催は寒い中ではありましたが、来てくださった方と一緒にクリスマスツリーを作りました(写真のものです)。作成には1時間弱。材料はほぼ100円均一のものを使用し、今回は熱で接着するタイプのグルーガンを使ってオーナメントを接着する作業をした所、初めてのグルーガンに「熱い、出すぎ、溢した！」等、ワイワイ言いながら作業をし、素敵なオリジナルのツリーを作りました。手を動かしながらの作業は、割と話題が尽きることなく話せるもので、そのたわいない時間が、とても有意義なあっという間のひとときでした。

本来、居場所づくりは、沢山の方にお声を掛け、人と話したい時、話を聞いて欲しい時などに皆が集

まれる場所を提供したい…と考えているのですが、ひだまりでは皆さまの健康を留意し、感染拡大を少しでも避けるため、ある程度の制限を設けて実施しています。制限に関しては、別途記しておきますのでご参考にしていただけるとありがたいです。

今後も工作は毎回続けるつもりでいますが、他にもボードゲーム・ジェンガ・ババ抜き・黒ひげ・囲碁・将棋・折り紙・トランプ等をし、普段話したことの無い方同士でも、楽しい時間を過ごしていただきたいと思っています。今後、このあつまりで「こういう事をしたい！」とご提案いただければ、新しい事も取り入れていきます。コロナが明けたら、制限なしで多くの方達と居場所づくりを楽しく開催できたらと考えております。

次回居場所づくりは3月下旬を予定しています。

あつまりに参加される方をお願い

- ・コロナ予防接種後6カ月以内
- ・マスク着用
- ・体調が万全な方



ちこネット就労部会の報告

～ 南房総の困窮者の現状 ～



12/25(金)、南房総市農村環境改善センターに於いて「ちこネット」(千葉県生活困窮者自立支援実務者

ネットワーク)就労部会が開催されました。

前半は南房総の困窮者支援の現状をお伝えするもので、南房総市社協の平井氏とひだまりの増田コーディネーターがパネリストとして登壇し発表しました。ひだまりは千葉県より鋸南町生困事業の委託を受けており、鋸南町の現状を発表しました。1市1町に共通していることは、住民同士の関心が強く、生活の実情を「世間に知られたくない」という意識が働くことで、県北の「隣の顔も知らない関係」が前提という事情とは大きく異なるようです。県北と県南の違いを感じられる良い機会となりました。後半はユニバーサル就労ネットワーク千葉の鈴木氏の講義で、職業適性検査を支援の入口にする・業務の切り出しを行う等、示唆に富むものでした。最後に夷隅ひなたの藤平氏の進行で、4者でパネルディスカッションが行われました。

相談部会勉強会

～ スマホのトラブルについて ～



12/6(木)地域自立支援協議会相談部会にて、研修会が行われました。主に計画相談を行っている事業所の

相談員、ケアマネジャーの方の参加があり、今回は「スマホ、携帯電話のトラブル」についてグループワークを中心とした、活発な意見交換が行われました。

話し合いの中で、事前決済、出会い系、契約、解約手続き時のトラブル等は障害者、健常者に関わらず、日常的に身近で起こっている問題であり、予備知識の収集や臨機応変な事後の対応が重要であるということが共有できました。また携帯電話は安否確認や連絡等の面では大変便利で有効なツールであることも再確認できました。

支援者としてもIT関係の操作には、得意不得意があり、関わりづらさもある課題ではありますが、今後も継続してトラブル時の解決策を考えていかなければならないと感じました。

グループホーム等支援ワーカーだより

～ グループホームの晩ごはん ～

障害があっても地域の中で自分らしく生活していくために、安房圏域には現在グループホームが沢山あります。今回号からそれぞれのグループホームの夕食のメニューを、“隣の晩ごはん”形式（知る人ぞ知る）で紹介していこうと思います。

初回は【ゆり庵株式会社】が経営するグループホーム、『以心・伝心、出雲、上気元、大和』の5カ所のホームの夕食を紹介します。ゆり庵株式会社では、パックの物は使用せず、いちから世話人さんを中心に手作りで提供しています。下記の写真は、ある日の夕食メニューです。



グループホーム以心・伝心

- 【豚とエビのカツカレー定食】
- ・豚とエビのカツカレー
 - ・マカロニサラダ
 - ・コーンスロー、薬味
 - ・コーンポタージュ
 - ・フルーツパフェ

職員 K 作



グループホーム出雲

- 【和風唐揚げ定食】
- ・和風唐揚げ（レタス＆トマト添）
 - ・おからポテトサラダ
 - ・お煮しめ（里芋、牛蒡、人参、大根、椎茸、蓮根、鶏肉、高野豆腐）
 - ・ご飯
 - ・お味噌汁（大根、油揚げ、わかめ）

職員 I 作



グループホーム上気元

- 【かつ丼定食】
- ・かつ丼
 - ・サラダ
 - ・冷ややっこ
 - ・コーヒーゼリー

職員 O 作



グループホーム大和

- 【ブリの照り焼き定食】
- ・ブリの照焼
 - ・菜花とベーコンと干しエビのソテー
 - ・玉子納豆
 - ・大根とおあげとネギのお味噌汁
 - ・みかん

職員 K 作

南総講座のお知らせ

第50回 千葉県障害者グループホーム講座

選ばれるグループホーム

～GHの質の向上を目指して～

令和5年3月9日（木） 13:00～15:00

障害者グループホームに関心のある方を対象に、グループホームに関する講座を毎年開催しております。コロナ禍ということもあり、昨年に引き続き ZOOM 開催となりましたが、左記の通り予定しております。ご興味のある方は是非参加をお待ちしております。参加申し込みは講座のチラシをご確認ください。

今回の講座のテーマは…「選ばれるグループホーム ～グループホームの質の向上を目指して～」です。

グループホームがあちこちで増える中、入居したいと思って貰えるホームはどんなホームなのか、今後求められるグループホームの役割や入居者にとって良い暮らしとは何なのか？相談支援専門員とサービス管理責任者、世話人の代表がリレートークをしながら参加者と一緒に考えて行きます。

地域移行部会 ～安房郡市の事業所見学～

地域自立支援協議会 地域移行部会では令和4年10月から12月にかけて、鴨川市、館山市、南房総市にある事業所見学が行われました。普段見ることのできない事業所内の様子について知ることができ、とても貴重な機会でした。

障害による症状を抱えつつも地域で生活しながら就労という希望に向かってがんばっている方々…事業所に通う方の背景はそれぞれですが、自分に合った場所で通所を継続する、ということはなかなか簡単なことではありません。

寄り添う支援者も本人の希望を聞きつつ本人が持つ

ている「強み」を伸ばしてくれるような場所を探しますが、事業所の作業内容がわかっていればいい、ということでもなく、作業環境だったり、通っている年齢層や雰囲気だったり、本人の「強み」が生かされるような場所を提案できることが必要です。

今回は館山市内にある就労継続支援A型事業所を3ヶ所見学することができましたが、どこの事業所も利用者の体調を第一に考えて休憩時間や声掛けをこまめに挟んでいるのがわかりました。身体や神経を使う作業だからこそ、細やかな配慮をされているのを感じました。



高次脳機能障害家族会より 本を寄贈いただきました



皆さま、高次脳機能障害を知っていますか？
脳の病気やケガ（交通事故）による後遺症として、出来ていたことが出来なくなったり生活がしづらくなったりする障害のことで、

一見わかりにくく「見えない障害」とも言われ、まだまだ周知が十分でない障害のひとつでもあります。

そんな中、南房総地区には高次脳機能障害の家族と支援者の会「なんぼーこーじ」があり、月1回の定例会や時々研修、行事等にひだまりも参加しています。今回はその家族会より「今日ほくもり、明日は晴れ」～みんなが読める、高次脳機能障害7人の物語～（発行：北海道大学リハビリテーション部）という本を寄贈いただきました。

具体的なエピソードと共に当事者の苦悩やご家族、友人支援者等、周りの方々の接し方がわかりやすく書いてあり大変勉強になる本でした。ありがとうございました。



新規開所 放課後等デイサービス見学会



2022年11月「放課後デイサービスホースセラピーたてがみ」さんが開所されました。放課後等デイサービスは、平日の放課後や学校休業日、長期休みに、受給者証を所持している就学児（小学生～高校生）を預かり、療育を行う事業所です。

場所は館山市大神宮、山道を進むと、パッと開けた空間に壮大な景色が広がっています。

オープン見学会に参加し、自然いっぱいの牧場で優雅にのんびりと歩いている馬の姿を見ているだけでも大変癒されました。利用をする中では、馬とのふれあい、お世話、乗馬等をしつつ精神機能、運動機能の向上を図るプログラムが用意されているそうです。

見学等についても、随時相談を受け付けているということでした。

☎ 0470-29-7929



ひだまり
スタッフの
つばやき

今、はまっているもの 「メダカの飼育」にはまっています



ひだまり顧問
水谷 正彦

始めてから10年位になりますが、全滅してしまうことが3回ありました。今はプラスチック製の水槽を3つ、ベランダに並べ飼育しています。

餌やりは毎朝1回（出かけるときは2-3日やらないこともあり）のみなので極端に少ないですが、水はほぼ毎日、ベランダでカルキ抜きをしたバケツの水を使い交換しています。朝の少ない時間を使い、寒い冬でもメダカのためには頑張れます。

春先から夏いっぱい、ホテイアオイの根に産まれた卵を採り、発泡スチロールの箱の中に移すと1-2週で孵化します。少し大きくなったら、水槽に戻します。育つメダカの数が年々増え、昨年は1,000匹以上となってしまう、今年は500匹に抑えました。現在は、ベランダの水槽に2,000匹、実家の池にも1,000匹のヒメダカ、黒メダカ、白メダカが元気に泳いでいます。



ひだまり掲示板

ひだまりからのお知らせ

ひだまりでは、子どもや障がい者、高齢者といった枠を取り払い、一人ひとりの状況にあわせて、公的機関、民間事業者、福祉グループなどが行なう様々な福祉サービスのコーディネートや、福祉の総合相談、権利擁護活動等をおこなっています。

ご相談は24時間・365日体制で受け付けています。ご相談方法は、電話やメール、ご自宅へ訪問、ひだまりへの来所など。個人情報はお守りしていますが、気になる方は匿名でのご相談もできます。

お気軽にご相談ください。



広報紙「ひだまりニュース 2023年新春号」2023.1.27 発行

〔編集・発行〕千葉県中核地域生活支援センターひだまり 〒294-0014 千葉県館山市山本 1155

TEL.0470-28-5667 FAX.0470-28-5668 E-mail: hidamari@s-taiyou-kai.jp



ひだまりのホームページ